

明石市地域福祉計画、明石市社会福祉協議会地域福祉活動計画策定に関わる

担い手ヒアリング調査 報告書

1 調査の目的	1
2 ヒアリング調査の対象	1
3 質問項目等	2
4 調査結果のまとめ	
(1) NPO、ボランティア団体	3
(2) 学生ボランティア	5
(3) 相談機関	7

1 調査の目的

- 「担い手の高齢化」「担い手不足」の課題に対応していくために、地域福祉活動における中心的な担い手を対象とした調査を実施し、活動実態やニーズを把握しました。地区社会福祉協議会役員、ボランティア、民生委員児童委員、自治会・町内会についてはアンケート調査を、NPO や学生ボランティアについてはヒアリング調査を実施しました。
- 新たな課題に対応していく上で専門職との連携が求められています。専門職の要である相談機関等を対象としたヒアリング調査を実施して、現場の実態やニーズを把握しました。

2 ヒアリング調査の対象

分類	名称	概要
NPO	福祉苑リーベの会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者福祉に係る団体。 ・ 知的障害者の自立を支援する作業所やグループホームを運営している。
	フルーツバスケット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援に係る団体。 ・ 子育て相談や託児などの事業と女性の再就労をセットで行っている。
	ウェルネスハート	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者福祉に係る団体。 ・ 中途視覚障害者の就労や生活を支援している。
	明石おやこ劇場	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの文化芸術活動に係る団体。 ・ 親子にプロの舞台を鑑賞する場を提供している。
ボランティア団体	ひまわり会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の食事支援に係る団体。 ・ ふれあいお食事処、配食サービスを実施し、食をとおした福祉コミュニティづくりをめざしている。
学生ボランティア	フェアウェイ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神戸学院大学のボランティアサークル。 ・ 神戸市、明石市などの事業の運営を支援している。
	S・S・W	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神戸学院大学のボランティアサークル。 ・ 人形劇、紙芝居、ゲームなど小学校や児童館での公演を行っている。
	明石西高校ボランティア同好会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生ボランティア同好会。 ・ 高齢者施設への訪問、福島県の高中生とのボランティア交流などを行っている。
相談機関	明石市基幹相談支援センター兼障害者虐待防止センター ほっと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者福祉の相談支援機関（明石市から市社協が受託）。 ・ 相談に対応する基幹相談支援センター、障害者虐待に対応する障害者虐待防止センター。
	明石市後見支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 判断の難しい認知症高齢者や障害者などの生活を支援する相談機関（明石市から市社協が受託）。
	市社協 地域包括支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者福祉、介護保険の総合相談機関（明石市から市社協が受託）。
	明石市医師会 地域包括支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同上（明石市から市医師会が受託）。

3 質問項目等

質問項目

分類	概要
NPO ボランティア団体 学生ボランティア	1 組織概要 2 活動内容 3 直面している問題 4 今後の活動展開 5 市の計画、市社会福祉協議会（市社協）の計画への提案
相談機関	1 組織概要 2 事業状況 3 地域で生じている問題、地域福祉に係る課題 4 地域との役割分担、連携について 5 市の計画、市社協の計画への提案

調査期間 平成 27 年 7 月～8 月

4 調査結果のまとめ

(1) NPO、ボランティア団体

①直面している問題

○障害者の理解が進んでいない

- ・障害者作業所では、自治会に入って清掃活動に参加する、バザーを開いて地域住民に来てもらうなど、障害者を理解してもらう働きかけを行っています。しかし、障害者福祉に係る NPO からは「障害者について地域の理解を得ることが難しい」「障害者施設は物件を借りることが難しい」といった意見があります。自立生活の拠点となるグループホーム建設では建設反対が生じており、地域で障害者の施設を借りることは容易ではない状況があります。
- ・相談機関からも、特に「精神障害者に対する理解が進んでいない」といった意見があります。市内の精神病院に通院しながら暮らしている障害者がアパートを借りることは難しい、グループホームの建設には反対が起きているなど、地域における生活のしづらさが現れています。

○中途視覚障害者の支援が弱い

- ・高齢化が進行するなかで中途障害者が増えています。中途視覚障害者が立ち上げた NPO からは、「中途障害者のネットワークが弱く」孤立しがちである、といった意見があります。

○ひとり暮らしの高齢者の増加に伴うニーズに対応できていない

- ・高齢者の食事支援に係る団体からは、ひとり暮らしの高齢者が増加に伴う「会食や配食サービスのニーズの高まりに対応できていない」といった意見があります。

○保育や子育て支援のニーズの高まりに対応できていない

- ・子育て支援に係る NPO からは、「保育や子育て支援のニーズの高まりに対応できていない」といった意見があります。子どもの文化芸術活動に係る団体からは、「会員が減少しており活動費の確保が求められている」といった意見があります。

○活動拠点の確保が難しい

- ・障害者福祉に係る NPO や子どもの文化芸術活動に係る団体からは、打合せ場所、倉庫、活動場所の確保が難しいといった「活動拠点の確保」の問題が上げられています。

②今後の活動展開と計画への提案

○障害者に対する意識を変えていきたい

- ・障害者福祉に係る NPO からは、「商品を販売する日常的な交流の場をつくって、障害者に対する意識を変えていきたい」といった意見があります。また、「活動の支援者を増やして、孤立しがちな中途障害者をつなげていきたい」、といった意見があります。

計画への提案

- 明石市や市社協が地域と作業所の橋渡し役に
- 障害者の作業所などが施設を借りることができるような支援

○明石市や市社協、地域と一緒に地域福祉活動を支える NPO でありたい

- ・子育て支援に係る NPO からは、「NPO は明石市や市社協と一緒にあって、新しい事業が起こしやすい」「明石市と一緒に新しい事業に取り組める NPO でありたい」といった意見があります。また、まちづくり協議会などの地域組織と一緒に取り組んでいる実績を活かして、「NPO のノウハウを活かして地域の活動を支援したい」といった意見があります。

計画への提案

- 市社協が子育てサークルの立ち上げを支援
- 明石市や市社協が地域と NPO の橋渡し役に

○新たなニーズに対応していきたい

- ・障害者福祉や子育て支援に係る NPO からは、「障害児の療育を充実させたい」「子育て支援に係る団体との連携を広げたい」「孤立しがちな中途障害者を支援していきたい」といった意見があります。高齢者の食事支援に係る団体からは、「地域包括ケアの食を支えたい」「地域の居場所や介護予防に取り組みたい」といった意見があります。
- ・それぞれの事業を拡充して、新たな社会動向やニーズに対応する活動展開が考えられています。

計画への提案

- 新たな社会動向やニーズに対応する活動展開の支援

(2) 学生ボランティア

①直面している問題

○活動費の確保が最も大きな問題となっている

- ・大学生、高校生ともに、活動費の問題が上げられています。
- ・高校ボランティア同好会は、福島県の高校生との交流会や豊岡市での合宿などを行っています。兵庫県から交通費補助を受けていますが、活動費の確保に苦労しています。

○身近な活動場所の確保が求められている

- ・高校ボランティア同好会では、市内の高齢者施設における活動や、通学途中の高齢者の見守り活動など、身近な活動場所の確保が求められています。

②活動してよかったこと、今後の活動展開

○高校ボランティアのほとんどは活動を継続したいと考えている

- ・大学ボランティアサークルでは、「大学ではできない体験を得ることができる」と行った意見があります。高校ボランティア同好会は、喜んでもらえた時、笑顔を見ることができた時に楽しいと感じており、ほとんどの生徒は卒業してもボランティア活動を続けていきたいと考えています。

○住み込み下宿型の高齢者の見守りや、子ども達と高齢者の橋渡しがしたい

- ・大学ボランティアサークルでは、「住み込み下宿型で家主である高齢者の見守り活動ができるとよい」「一緒に畑作業を行う、料理をするなど、学生が日常生活のなかで、高齢者と交流できるとよい」といった意見があります。
- ・また、お弁当をつくって小学生と一緒にひとり暮らしの高齢者に届けるなど「子ども達と高齢者の橋渡しがしたい」といった意見があります。
- ・高校ボランティア同好会は、ため池などの資源を活かして「明石の高校生ならではの活動ができるとよい」、「緊急災害時に高校生として活動したい」といった意見があります。

③今後の活動展開と計画への提案

○大学のボランティア支援室との連携を図る

- ・ ボランティアをやりたい学生は沢山いるなかで、大学のボランティア支援室は学生にあまり知られていません。ボランティア募集のチラシが貼ってあるものの、コーディネートができていないこともあり、「大学のボランティア支援室との連携を図ってはどうか」といった意見があります。
- ・ 夏休みなどに小学生の学習の手伝いをしてみたい、スクールサポーターをやってみたいといった意見があります。

○福祉施設と高校との橋渡し役になって欲しい

- ・ 高校ボランティア同好会には、高齢者施設からボランティアに来て欲しいという依頼があり、「継続して関わっていきたいことから市社協に橋渡し役になって欲しい」といった意見があります。また、ひとり暮らし高齢者の見守りなど、「生徒が通学途中で気軽に参加できるような身近なボランティア活動をしたい」といった意見があります。
- ・ 明石市でも他都市のように、「学生ボランティアの活動に対して、交通費やお弁当代などの活動助成を行って欲しい」といった意見があります。

計画への提案

- 大学のボランティア支援室との連携を図る
- 明石市や市社協が福祉施設と高校との橋渡し役に
- 学生ボランティアに対して、交通費やお弁当代などの活動助成

(3) 相談機関

①地域で生じている問題、地域福祉に係る課題

○障害者や権利擁護に対する理解が進んでいない

- ・「精神障害者について地域の理解が進んでおらず偏見が強い」といった意見があります。グループホーム建設等には反対が生じており、障害者がアパートを借りることは難しくなっています。手帳交付を受けていない、自立支援医療を利用していないなど、サービスにつながっていない障害者があります。
- ・判断の難しい認知症高齢者や障害者などの生活を支援する「後見制度や、権利擁護について地域の理解が広がっていない」といった意見があります。

○人のつながりが弱く、地域の特性によってさまざまな課題を抱えた地域がある

- ・新しい集合住宅は人のつながりが弱く、誰が住んでいるのか分からない状況である、震災復興住宅、公営住宅は特に高齢化が進んでおり、生活困窮層も多いなど、「地域の特性によって、さまざまな課題を抱えた地域がある」といった意見があります。

○身近なサロンが求められている

- ・サロン参加者の高齢化が進んで送迎が必要な段階になっていることから、「歩いて行ける身近なサロンの開設が求められている」といった意見があります。学生ボランティア（兵庫県立大）が関わっているサロンがあり、新しい担い手確保の必要性について指摘されています。

②地域との役割分担、連携について

○障害者理解のために、作業所と地域住民との交流を促進したい

- ・作業所が自治会に入って地域の祭りに参加するなど、障害者と地域住民と一緒に活動している地域があります。作業所は施設を開いていくことで地域の理解を広げていきたいと考えており、相談機関として「作業所と地区社協をつないでいきたい」と行った意見があります。

○権利擁護や後見制度を広げていきたい

- ・後見支援センターでは、権利擁護の担い手である権利擁護支援員として、市民後見人養成講座が実施されます（平成 27 年度実施予定）。また、市社協による法人後見実施を予定しており、権利擁護や後見制度を広げようとしています。

○地域では支えきれない困難ケースが発生している

- ・身寄りのない認知症や精神障害者、触法者など、地域で問題になっているケースの相談が寄せられています。自治会代表などの地域リーダー、キイパーソンに負担が集中しており、専門職の支援がないと地域だけで支えることは難しくなっています。
- ・制度につながっていない人があり、民生委員児童委員やボランティアと連携してサービス利用を進めていく必要があります。

○地域包括支援センターの在り方検討とともに、在宅介護支援センターとのさらなる役割分担が求められている

- ・在宅介護支援センターは、在宅サービスゾーン協議会の事務局を担っており、地域組織やボランティア等のインフォーマルな資源とのネットワークを持っている、地域のキイパーソンを把握しているなどの強みがあります。
- ・明石市では、日常生活圏域における体制づくりをめざすなど、地域包括支援センターの在り方について検討が進められています。
- ・市社協の地域包括支援センターでは地域診断「地域アセスメント」を実施し、中学校区単位の課題を整理しており、結果を基に地域課題の解決に向けて、在宅介護支援センターと連携して取り組んでいきたい、と考えています。包括支援センターの在り方検討において、在宅介護支援センターとの役割分担が求められています。

○新たなニーズに対応していきたい

- ・高齢者福祉事業所において、認知症カフェの取組みが広がりつつあります。「包括からも職員が参加し、運営を支援していきたい」といった意見があります。
- ・ごみ屋敷の対応では、明石市の住宅課と連携して解決に当たっている、保証人がいないひとり暮らしの高齢者に対して入居拒否があり、賃貸住宅を借りることが難しいなど、地域包括ケアの住まいの課題についても取組みがあります。

③市の計画、市社協の計画への提案

○教育現場で障害者理解を広げていきたい

- ・日常生活の身近なものとして、障害者に触れるカリキュラムが必要である、明石市は幼児教育、小中学校で障害児と一緒に学んでいる、その環境を障害者理解の場として活かしたい、といった意見があります。

○地域における障害者の理解を広げる

- ・障害者の親の輪を広げることができるとよい、といった意見があります。親の活動を地域で支えてくれることで、地域における障害者の理解が広がるのが期待できます。

○新総合事業のしくみづくりに取り組んでいきたい

- ・市社協では山手小、藤江小の2地区を新総合事業のモデル地区としており、地区社協が中心となり地域の資源収集から始めています。
- ・事業を導入していくにあたり、どのように進めていくか現場の職員が対応できていない、行政主導、専門職主導ではなく、地域ぐるみで進めていかないと上手くいかない、といった意見があります。

○孤立を防ぐサロンなどの居場所づくりを進めたい

- ・在宅介護支援センターや地域組織と連携して高齢者の孤立を防ぐサロンの立ち上げを働きかけていきたい、サロンに出ることが難しい高齢者に対して、ふれあい訪問を広げていきたい、といった意見があります。

○人のつながりをつくっていくために、子育て層に働きかけをしたい

- ・子育て層は、子育てを通じて地域コミュニティに入っていく事が期待できる、子ども会から地域活動に参加する、地域活動に参加するよう子育て層に働きかけたい、といった意見があります。

計画への提案

- 教育現場で障害者理解を広げていく
- 地域における障害者の理解を広げる
- 地域が主役となった新総合事業のしくみづくり
- 孤立を防ぐサロンなどの居場所づくり
- 人のつながりをつくっていくために、子育て層に働きかけ